



学習発表会（菊まつり）の参観ありがとうございました

### 「想いのキャッチボール」～届けよう想い 伝えよう心～ のテーマのもと「学

習発表会&第47回菊まつり」を実施しました。多くの来賓・地域、保護者の皆様に参観いただき改めて「地域とともに本野小」を感じたところです。本当にありがとうございました。当日は、座席が足りずに座って参観できない方もおられました。誠に申し訳ございませんでした。また、地域の方や保護者の方が、楽しみにしていた掲示等については、変更になったことを周知できずにご迷惑をおかけしました。次年度以降に反省としてしっかり引き継いでいきます。



さて、『50年ほどの歴史がある菊の栽培。命に触れ、子どもたちの豊かな心を育てるためにこれまで長い間引き継がれてきました。以前は、全校児童が育てていた頃もあったそうです。しかし、現在児童数の激減から、どのように継続していくのが一番良いのかを検討しています。』と学校だより30号に書かせていただきました。これだけを読むと、「菊づくりがなくなるのではないかと」思われた方もおられたのかもしれませんが、決してそうではありません。どのような取組にしていくかを検討することで、児童、教職員も、保護者、地域の方も無理なく継続していけるのかを考えているところです。これについても、継続の方法が定まってきましたら、保護者・地域の皆さんに説明したいと考えています。

「なぜ、そのようなことを考える必要があるのか？」と思われる方もおられるでしょうが、菊づくりには、ご存知の通り、花を咲かせるまでにたくさんのお世話の過程があります。その度に、三ヶ島先生、婦人会の皆様、民生委員の皆様、学習発表会の運営については、保護者の皆様に大きなご協力をいただいています。教師だけで指導・運営をするには限界があるため、大変助かっているのが現状です。ただし今後はどうでしょうか？

4年後、令和10年度の全児童数の予定は49名、世帯数は40世帯前後です。現在の職員数（長崎県費負担の教職員）は13名ですが、10年度は10名となる予定です。当然ですが、PTA会員数も減少しますし、地域の皆様の高齢化も進んでいます。そのころあるべき姿を思い描いて、今あるものを少しずつ見直していくことが、今後の「持続可能な本野小の教育活動」につながると考えています。「やめるか続けるか」ということではなく、「方法を考える」と捉えていただけたらと思います。

ご意見、ご要望があることは十分に承知しておりますが、わたしたちは、形態は変わっても数年後の本野小でも「菊づくり」がしっかり受け継がれていることを望んでいます。わたしたちの後を引き継ぐ職員、学校を支えていただく保護者の方、そして、児童のことを思い学校に関わっていただいている地域の方。この三者が、無理なく、笑顔で活動することが、児童の成長の大きな糧になるものだと信じています。どうぞよろしくお願いいたします。

※チャレンジボードの説明は、次号以降に延期します。